

令和元年度 第1回東京都保険者協議会医療計画等検討部会 会議要旨

委員定数 18名

1 開催日時 令和元年12月20日（金） 午前11時11分～午前11時53分

2 開催会場 A P 市ヶ谷 6階Cルーム

3 出席者【16名】

全国健康保険協会東京支部代表	3名
健康保険組合代表	4名
国民健康保険の区市町村代表	2名
国民健康保険の組合代表	2名
共済組合代表	2名
後期高齢者医療広域連合代表	1名
健康保険組合連合会東京連合会代表	1名
東京都国民健康保険団体連合会代表	1名

4 会議次第

○開 会

○ (1) 東京都保健医療計画（平成30年3月改定）について

(2) 東京都外来医療計画 素案について

【東京都福祉保健局 医療政策部医療政策課担当者からの説明】

○ 協議事項

東京都外来医療計画 素案に対する意見について

○ 閉 会

5 会議要旨

(事務局)

《開 会》

- ・東京都保険者協議会医療計画等検討部会設置運営要綱第9条（会議録等の取扱い）
について説明
- ・委員18名中16名の出席のため、東京都保険者協議会医療計画等検討部会設置運営
要綱第7条に基づき、過半数に達していることを報告

《 (1) 東京都保健医療計画（平成30年3月改定）について及び

(2) 東京都外来医療計画 素案について》

【資料1～資料4】を用いて東京都福祉保健局 医療政策部計画推進担当課長から説明

《協議事項》

東京都外来医療計画素案に関する意見について

(部会長)

東京都から説明があったが、それぞれ意見があればお願いしたい。

(健康保険組合を代表する委員)

地域医療構想調整会議でも説明を聞いているので承知しているが、非常にこの計画は唐突感がある。やむを得ないとは思いますが、受け入れにくい状況がある。国から出た再検証の件もそうだったが、今後進めるスケジュール感も非常に難しいやり方だと思う。

調整会議の中の説明では、求めた学校医やいろんなジャンルの不足感など地域地域の現場の意見を集約したいということであったが、調整会議という限られた中では、現場の状況が正直わからない。何か違う切り口も入れたほうがいいと思い、その辺も検討いただきたい。

(東京都福祉保健局 医療政策部計画推進担当課長)

東京都としては、法で定められたものは法のスケジュールにのっとってやらなければいけないが、今回の計画は3月の策定に向けて非常に短い期間で、ご意見もいただいてつくっているが、それっきりで終わりではなく、引き続き議論を続け、順次変えていきながらよりよいものにしていきたいと考える。

不足する医療のところは国のガイドラインに基づいたところだが、各医療圏ごとに不足する医療機能は何かというところでご意見をいただいている。

国から「夜間・休日における初期救急医療」、在宅医療や学校医、予防接種や公衆衛生に係る部分が例示として示され、それに基づいて我々も今回やっている。

他の切り口など重要なものが当然あると思うが、それは意見いただき、第2部のほうに入れ、二次医療圏ごと、区市町村ごとなのか、違うレベルなのかも含め検討していきたい。

(健康保険組合を代表する委員)

目的がこれから開業される方の行動変容を促すというのが主眼になる。今の切り口は、医療保険者の範疇を超えているというのが先ほどの意見である。これは調整会議など、ごく一部の我々関係者だけの意見で本当にいいのかとも思い、重ねているんな切り口での議論の場を、東京都としても用意されて進めたほうがいいのではないかと思う。

(部会長)

他に意見はあるか。

(健康保険組合を代表する委員)

地域医療調整会議が府中であり、現場の先生たちは全然過剰でないのに何で過剰なのだという意見がかなりあり、やはり唐突感があるとの意見であった。

現場感としては、マンモグラフィとか胃カメラの判定医師が少ないから困っている。学校医とか予防接種含めて、小児科医が足りないというような話もあった。私は、現場感でいくと産業医が足りない。資格を持っている方はいるが、今の健康保険を含めたことができる産業医、重症化予防できる産業医も非常に少ない。我々国民が求めているのは医療の質であり、数をいっている場合ではいという危機感を覚えてやるべきと思う。

(部会長)

医療政策部計画推進担当課長への質問は以上でよろしいか。

(医療政策部計画推進担当課長 退席)

(部会長)

事務局から今後のこの外来医療計画のスケジュールを、調整会議含めてお願いしたい。

(事務局)

《今後のスケジュールについて》【資料5】を用いて説明

(部会長)

事務局から、学識経験者からのご助言いただいた外来医療計画について保険者としてどういう視点で見たらいいのか聞いたことを説明願いたい。

(事務局)

計画推進担当課長の説明とずれてしまうところもあるが、参考とさせてもらえればと思う。

外来医療計画を追加するのであれば、将来的な2025年の東京の医療についての方向性、全体的なビジョンが明確になっていないのではないか。一定の目標がないと2025年には整合性がとれていないなどが起きるのではと考える。

地域医療構想で必要病床数の議論がされてるが、本来であれば、外来医療の必要数は推計が必要ではないかということをおっしゃられていた。

高齢化が進むと外来に通えない方が在宅医療にシフトしていくと思われる。在宅医療との関係も見ながら可能な限り数字で示さないと、途中で見直すにしても、数字がないと評価、見直しがしづらくなるのではないかと考えられる。

数字に加えて入院と外来。外来にはかかりつけ医が当然入るが、在宅医療との連携、情報共有も重要になってくる。何か仕組みを検討など、特に追補していく形になると、それぞれ入院、外来が独立してしまい、関係性とか連携について検討、記載が薄くなるため、意識的に記載する必要がないかというのが意見であった。

(部会長)

本日の意見と、メールでの追加意見について、事務局はとりまとめをお願いしたい。

以上で本日の議事はすべて終了とする。

閉 会